

平成 30 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター・准教授
氏名 Name	水野 亜紀子
専門分野 Academic Field	日本近代文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	①樋口一葉の作品研究 ②雑誌『青鞥』に関する研究 ③女性作家における師弟関係について
<p>女性作家の作品研究に取り組む中で、今年度は特に上掲の三つのテーマを中心に研究を行った。</p> <p>①樋口一葉の作品研究としては、「たけくらべ」（初出は『文学界』明治二十八年一月～二十九年一月）を取り上げ、作品の読解を通じて当時の女性をめぐる状況について考察した。本作は一葉の作品の中でも先行研究が多いものの一つで、様々な観点から論じられている。年度の初めには、そうした先行研究の中で等閑に付されてきた問題に目を向けて考察を行いたいと考えていたが、研究を進めていくうちに、作品の背景にある日清戦争との関連からあらためて作品を問い直す作業を行うことになった。この一葉作品の研究で持ち始めた問題意識を反映させる形で、第 12 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム（2018 年 12 月 8 日、香港理工大学）にて「明治時代への批判―芥川龍之介「ひよつとこ」を例として―」と題する口頭発表を行った。ここでは、大正四年四月に発表された芥川龍之介の作品「ひよつとこ」（『帝国文学』）には終わりゆく明治時代を振り返る作者の視点があること、また、日露戦争を背景とした時代のムードに作者の冷徹な目が向けられていることを指摘した。</p> <p>②雑誌『青鞥』に掲載された小説に焦点を当て、それらがどのように当時の解釈のモードと接続していたのかを探る作業を行った。加藤みどり、上野葉、杉本正生、木内錠子、生田花世などの小説を見ていったが、この作業は今後も引き続き行う予定である。</p> <p>③明治・大正期の女性作家が作家デビューを果たす際、師から受けた指導内容がどのようなものであったか、また、師によって女性作家の作品がどのように世に送り出されたか、その際どのように紹介されたかに着目して、当時の女性作家に対する意識や女性一般をめぐる社会状況について考察した。野上弥生子、田村俊子を対象として分析を行った。この研究は今後も引き続き行う予定である。</p> <p>その他、日本語実習（上級読解）の中で行った授業の工夫について「「上級読解」の実践報告」（『授業研究』、第 17 号、2019 年 3 月）にて報告を行った。</p>	